

## 大切な一日、おまつり

村上市立村上東中学校 3年 渡部 佑太郎

僕の名の「佑」の字は、良き大町巴組の太鼓を佑けるようにと付けられた。その名のように大町の祭りに関わる人の役に立つ人でありたいと思う。

僕は、この村上の祭りがとても好きだ。なぜなら、村上の人が一つになり、にぎやかに楽しそうにしているからだ。そして、先祖代々受け継がれてきた村上の祭りを大切にしたいとも思っている。

僕は、母のお腹の中にいるときからお囃子を聞き、生まれてからは父に抱っこされて、定木という屋台を動かす所を触っていた。幼稚園の頃から屋台に乗り、祭りに参加してきた。その時から、父は町内を代表して先太鼓の会に行ったり、屋台運営委員会をしたりして、いろいろな所に行き、仕事をしていてカッコいいと思っていた。その間、僕もいろいろなことを吸収してきた。例えば、年齢が下の人から挨拶をすることや、コップ洗いや給与の作業、練習場の掃除などだ。

今年は祭りの経験のない友達を誘い、その友達に参加してくれることになった。これは人数の少ない大町にとってとても助かる。それ以上に、その友達に村上の祭りの「良さ」を知って欲しいと思った。それには、僕の祭りに対する熱い思い、礼儀、伝統の中にある楽しさ、辛さ、危険なことを、その友達に伝えなくてはならない。ここから、今年の村上大祭、七夕祭に参加する心構えを変えなくてはならないと考えた。今年は、友達の手本となるよう、自分から動くポイントを見つけ出し、率先して動き、かつ、友達にもその苦楽を味わってもらえるよう、気配りしたい。

注意しなければならないのは、屋台の車輪との距離感と、定木後方での位置だ。運行中は、前後左右の動きが不安定なので、怪我をしないようにしなければならない。その他、電線や街路灯の高さや道幅、道の傾斜の具合で動き方が変わる。急な時には、呼子という笛を使用するが、連発すると楽しい流れが止まるので、早めにお互いが目や手ぶりで合図を送り合い、気持ちのいい流れの

まま障害を避けるようにする。これは、休憩時も同様で、急に呼子を使用して出発では落ち着きがないので、少し早めに声をかけ、片づけを始めると、気持ちよく動き出せる。

僕は、今まで定木に入らず、裏で活動していたが、今年はほぼ一日中友達と一緒に定木に触っていた。そして、今までにない楽しさを発見した。一日中定木に入っていると、みんなで村上甚句を合わせたときなどに、一つになった気がして楽しい。僕が、村上甚句の上の句を唄ったら、先輩たちが下の句を合わせてくれた。とても気持ちがよかった。唄い出した瞬間は、大町の定木の主役になったような気がした。その次に定木の責任者の大先輩が唄い出すと、その先輩は唄いながら天上師と目で合図をしたり、定木の両側を気にしたりしていた。

それを父に話すと、『屋台の両角には獅子の彫刻があり、一方は口を開いた「あ」、もう一方は口を閉じた「うん」になっている。屋台後方にある龍の彫刻も同じようになっている、「あうん」の呼吸ができるようにという願いを込めている。』と、教えてくれた。

これからは、その「あうん」を大切にしつつ、率先して行動し、父のように町内を代表して祭りを運営できるところまでいき、十九町内の仲間が増えるように努力していきたい。

最後に、東北地方には有名で伝統のある祭りがたくさんある。しかし、今回の大震災で祭りを行うことができない地域もあるという。でも、村上は何事もなく無事に祭りができることに僕は感謝したいと思う。

僕は、この村上に生まれ、育ち、村上の人間として祭りを支えることに誇りをもって生きていこうと思う。

大切な一日、おまつり。